

1. ミネベアミツミの歩み

自律成長
(オーガニック)
×
M&Aで成長

当社は1951年7月、日本で初めてのミニチュアベアリング専門メーカーとして東京都板橋区に誕生しました。終戦後、満州から帰国した旧・満州飛行機製造の技術者が航空機産業の発展に夢と情熱を託して立ち上げた会社でした。

それから70年がたち、電子機器分野に進出するとともに、ミツミ電機、ユースン、エイブリックとの経営統合をへて、ボールベアリングからモーター、センサー、アクセス製品、半導体に至るまで、世界でも類をみないユニークな事業ポートフォリオを持つ「相合」精密部品メーカーへと成長しました。

私たちは、自律成長(オーガニック)とM&Aの両輪で成長を続け、世界のものづくり・皆様の暮らしをお支える新しい価値の創造に取り組んでいきます。

1951年～ 創業期



創業期からの不変的な考え方
「超精密機械加工技術」「大量生産」

当社は、ミニチュアボールベアリングの商品力強化のため創業期から高品質、低価格を追求してきました。1964年、軽井沢工場に最新の機械設備を導入するとともに、海外の技術者から指導を受けたことで、技術レベルが劇的に向上。海外への輸出も増加し売上が拡大したことで、軽井沢工場に次々と新鋭の機械を導入し、「超精密機械加工技術」「大量生産」で競争力を高めていきました。

自律成長

(オーガニック)

1951年創業、東京都板橋区小豆沢において、わが国初のミニチュアベアリング専門メーカー「日本ミニチュアベアリング株式会社」を設立



1963年
埼玉県川口市から工場を移転し、長野県御代田町で**全世界のマザー工場となる軽井沢工場**にて操業開始



1970年～ 多角化



米国 REED 工場
(現 NHBB チャットワース工場)

海外進出と多角化で事業領域を拡大

ベアリングが将来なくなるかもしれないという危機感から、1973年にモーター事業を開始し、1980年代には半導体や電子機器部品事業へ進出しました。

1971年には米国 REED 工場を買収し、海外生産を開始。1972年にはシンガポール、1980年にはタイで自社工場の海外生産も開始しました。国内外のM&Aも積極的に実施し、技術者獲得や生産能力増強を実現した一方で、化粧品や着物の訪問販売会社、養豚関連事業会社といった製造業以外の企業も買収し、事業規模を拡大していきました。

1990年～ 製造業への回帰



上海工場 (中国)

事業の選択と集中を進め、経営をスリム化

1990年代に入ると多角化のマイナス要因が膨らみ始めたため、製造業と関連が薄い事業の整理を進めるとともにベアリングや電子機器といった本業に経営資源を集中し、収益力の回復をはかりました。中国・上海でボールベアリングの一貫生産をスタート。高精度なHDD用部品の生産を本格化するなど、「超精密機械加工技術」「垂直統合生産」をさらに磨き上げました。

M&A

1971年
米国で**当社初の海外生産を開始**

1980年
小径サイズの**ボールベアリングの生産を開始**

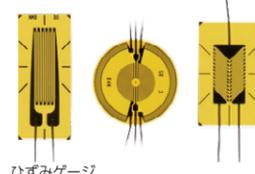


1988年
英国のロッドエンドベアリングメーカーを買収 **欧州市場への供給を拡大**



Rose Bearings Ltd.
(英国、現 NMB-Minebea UK リンカーン工場)

1974年
電子機器分野 (計測機器・現 **センシングデバイス事業部**) に進出



New Hampshire Ball Bearings, Inc.
(米国、現 NHBB ピーターボロー工場)

1985年
米国のベアリングメーカーを買収 **米国市場への供給を拡大**



1990年
ドイツに**HDD用スピンドルモーター開発会社を設置**

Papst-Minebea-Disc-Motor GmbH
(ドイツ、現 MinebeaMitsumi Technology Center Europe GmbH)

M&A件数

3-
2-
1-



会社紹介はこちらから
ご覧いただけます。

